

# Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド  
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

## 為替週間展望 = ドル円は109円台を中心に一進一退の動きか

[2月17日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		2月10日～2月14日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	109.80	110.13(12)	109.56(10)	109.77	+0.02
ユーロ・ドル	1.0951	1.0958(10)	1.0827(14)	1.0839	-0.0107

=====

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	23,687.59	-140.39	日本10年債利回り	-0.028	+0.010
ダウ平均株価	29,423.31	+320.80	米10年債利回り	1.617	+0.034

=====

<来週の主要経済統計等>

- 17日 日本第4四半期国内総生産 (GDP) 1次速報  
英2月ライトムーブ住宅価格  
日本12月鉱工業生産指数確報値
- 18日 豪中銀 (RBA) 理事会議事録  
英1月雇用統計  
独2月ZEW景況感指数  
カナダ12月製造業出荷  
米2月NY連銀製造業景気指数  
米12月対米証券投資
- 19日 日本1月貿易収支、日本12月機械受注高  
ユーロ圏12月経常収支  
英1月消費者物価指数、英1月生産者物価指数、英1月小売物価指数  
米MBA住宅ローン申請件数  
米1月生産者物価指数  
カナダ1月消費者物価指数  
米1月住宅着工・建築許可件数  
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事録 (1月28～29日分)
- 20日 NZ第4四半期生産者物価指数  
豪1月雇用統計  
独1月生産者物価指数  
英1月小売売上高  
米2月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数  
カナダ1月新築住宅価格指数  
米1月景気先行指数
- 21日 日本1月消費者物価指数  
ユーロ圏1月消費者物価指数  
カナダ12月小売売上高  
米1月中古住宅販売件数

【前回のレビュー】米国市場では新型コロナウイルスへの警戒感が一服して、米国株や米10年債利回りが上昇、ドルも堅調な動きを見せており、新型コロナウイルスへの警戒感が重石となる可能性はあるものの、ドル円は109～110円台で底堅い展開になりそうとした。

【新型コロナウイルスへの警戒感が再燃】

中国では、新型コロナウイルスの感染者数や死者の数は依然として拡大傾向にある。12日までは新型コロナウイルスの感染拡大ペースは鈍化するとの見方が広がり、各国の株価は底堅い動きを見せることとなった。中国以外での感染者数や死者の数は限定的となっており、ウイルスの感染拡大を封じ込め、終息に向かうとの見方も一部には出ていた。

ところが13日の日本時間の朝方の中国湖北省の衛生当局の発表によると、新型コロナウイルスによる死者が242人増えて、合計1310人になった。また、新たな感染者が湖北省だけで1万4840人増加した。感染者の基準見直しで感染者数の急増につながったと発表された。感染者数の増加ペースが鈍化しているとの見方が広がっていたものの、逆に急増したことで新型コロナウイルスへの警戒感が再燃することとなった。

中国での感染者数の急増を背景に終息への不透明感が一段と増しており、13日の米国株は下落した。また、13日には日本国内で初の死者が確認されたこともあり、14日の日経平均は売りに押される展開となった。

そうした中、米国の経済指標は堅調な動きを見せている。米国では、3日発表の1月の米ISM製造業景況指数、5日発表の1月の米ADP雇用統計、1月の米ISM非製造業景況指数、7日発表の1月の米雇用統計の非農業部門雇用者数などがいずれも良好な結果となっている。13日にはNYダウ、ナスダック、S&P500の主要3指数がいずれも過去最高値を更新しており、ドルも堅調な動きを見せている。

米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は、11日の下院金融委員会での議会証言で、新型コロナウイルスの感染拡大は世界の経済にとって懸念要因であるとの認識を示した。また、短期国債の買い入れによる資金供給を縮小する意向も示した。パウエル議長の議会証言の内容に関しては、市場の想定ほどハト派ではないとの見方が広がっている。

新型コロナウイルスの感染拡大は引き続きドル円の上値を抑える要因となりそうだ。もっともドルも買われやすくなっており、ドルとともに円が買われることでドル円の値動きは109円台半ばから110円近辺の狭いレンジにとどまっている。ドル円は110円を超えて大きく上昇する動きは期待しにくいものの、極端な崩れもないとみられ、109円台を中心とするもみ合いとなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、109.00～110.50円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、17日に日本第4四半期国内総生産（GDP）1次速報、日本12月鉱工業生産指数確報値、18日に米2月NY連銀製造業景況指数、米12月対米証券投資、19日に日本1月貿易収支、日本12月機械受注高、米MBA住宅ローン申請件数、米1月生産者物価指数、米1月住宅着工・建築許可件数、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事録（1月28～29日分）、20日に米2月フィラデルフィア連銀景況指数、米新規失業保険申請件数、米1月景気先行指数、21日に日本1月消費者物価指数、米1月中古住宅販売件数などがある。

#### 【ユーロドルは上値の重さが継続か】

ドルの堅調な動きもあって、ユーロドルは下落基調で推移している。1.1000ドルの節目を下に抜けた後も軟調な流れが継続しており、11日には1.0900ドルの節目を一時割り込んだ。いったん戻したものの、12日には再び1.0900ドルを割り込むなど、下落トレンドを描いている。下げが続いてきたことで、テクニカル的な売られ過ぎ感から上昇に転じる可能性はあるものの、戻りの動きは一時的なものにとどまるとみられる。

ドイツでは、メルケル首相の後継者の最有力候補とみられていたクランプカレンバウアー氏がキリスト教民主同盟（CDU）の党首を辞任すると表明するなど、政局が混乱している。ドイツの政局不透明感に加えて、12日に発表された12月のユーロ圏鉱工業生産指数が下振れするなど、経済指標の結果も低調でユーロは買いにつながる材料に乏しい。ユーロドルは上値の重さが継続して、下値を探る展開となりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0750～1.0900ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、17日に英2月ライトムーブ住宅価格、18日に豪中銀（RBA）理事会議事録、英1月雇用統計、独2月ZEW景況感指数、カナダ12月製造業出荷、19日にユーロ圏12月経常収支、英1月消費者物価指数、英1月生産者物価指数、英1月小売物価指数、カナダ1月消費者物価指数、20日にNZ第4四半期生産者物価指数、豪1月雇用統計、独1月生産者物価指数、英1月小売売上高、カナダ1月新築住宅価格指数、21日にユーロ圏1月消費者物価指数、カナダ12月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買については御自身の判断をお願いします。

---

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。